

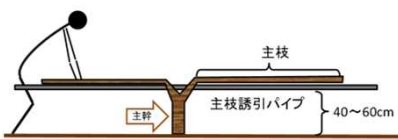
# イチジク新樹形「オーバーラップ整枝」

## 【背景・目的・成果】

イチジクでは、凍害を回避する樹形として主枝を高く配置する高主枝栽培が有効で、あわせて結果枝の伸長が抑制され果実の高品質化に有効とされています。

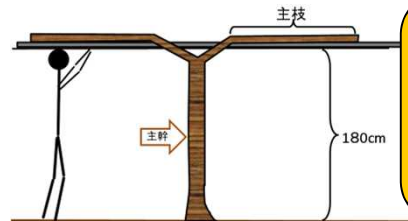
しかし、高主枝では結果枝が180cm以上と高くなるため誘引や収穫時の作業能率が悪くなります。そこで、当センターでは作業性が優れ、凍害回避に有効な樹形とするため、高主枝の主幹部を従来の高さで水平に倒した「オーバーラップ整枝法」(特許出願中:2014-147213号)を考案しました。

### 各樹形のイメージ図



一字整枝(慣行)

○作業性が良い。  
×凍害に弱い。  
×樹勢の抑制が困難。

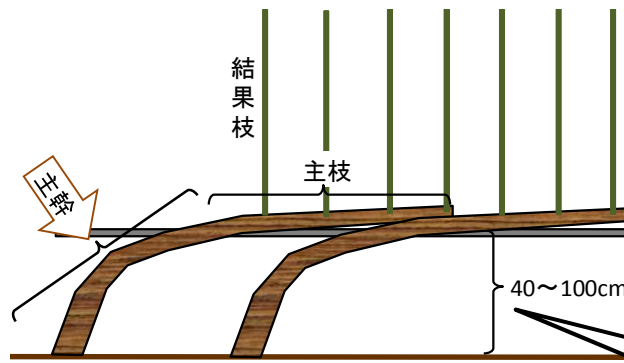


一字整枝(高主枝)

○凍害に強い。  
○収穫時期が前進化。  
×作業性が悪い。

主幹部を長く設定できる。

高主枝と同様の効果が期待。



オーバーラップ整枝(新樹形)

隣接樹の主枝が主幹部の上に重なる。

主幹部の凍害や日焼け軽減効果が期待。

主枝の高さは柔軟に幅をもたせて設定することが可能

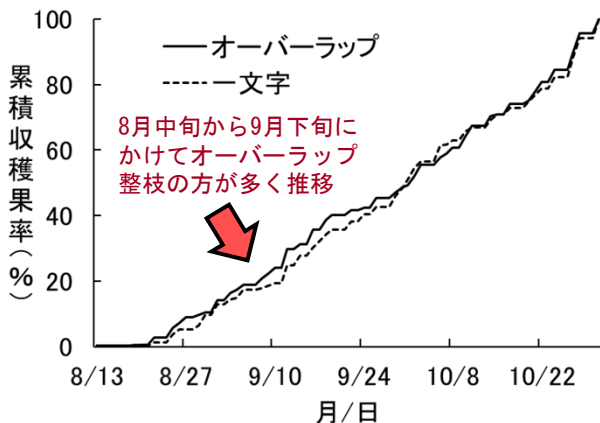


図 樹形の違いがイチジクの収穫時期に及ぼす影響 (2015年 農技センター内)

表 整枝法の違いが果実品質に及ぼす影響(姫路市豊富)

整枝法	果実重(g)		果皮色 <sup>2</sup>	
	2013年 <sup>y</sup>	2014年 <sup>x</sup>	2013年	2014年
オーバーラップ	97.0	78.1	7.1	5.8
一字	73.1	70.7	6.8	6.2

<sup>2</sup>カラーチャート値:1~9の9段階評価

<sup>y</sup>調査日:9/12, 11/8

<sup>x</sup>調査日:9/8, 10/8

収穫時期の前進化が期待できます。

果実は大玉傾向。  
果皮色にはあまり影響しません。

## 【技術の活用】

凍害の恐れのある地域で新たに植え付ける場合に活用できます。

本技術を利用して栽培を行う場合には、事前にお近くの農業改良普及センターにご相談下さい。